スペイン語講座 Lección 22

今回のテーマ

母音変化動詞の活用について(1)

Sobre la conjugación de los verbos con cambio vocálico en la raíz I

今回は「母音変化動詞」の活用を扱います。より正確には「語根母音変化動詞」(verbo con cambio vocálico en la raíz)と言われるのですが、一般の学習者には「母音変化動詞」でよいと考えています。初心者の授業では、動詞の活用は理由を考えないでひたすら覚えましょう、と言われることも多いでしょうが、中級レベルに達した段階で体系的に再確認するのは決して無駄なことではありません。理屈を知ればなお理解が深まることでしょう。動詞に母音変化が多いのはスペイン語の大きな特徴なのでしっかりと覚えることが肝心です。

本題に入る前にそもそも母音変化とは何か、なぜ起こるのかについて考えてみたいと思います。動詞の活用においてその語尾が変化するのは普通ですが、本体の方(語根raíz)の母音が変わることも実はよくあることです。英語や日本語でも見られる現象です。例えば、英語ではsing-sang-sungのように“i〜a〜u”という変化によって「原形〜過去形〜現在分詞」を作っています。

日本語にも母音変化動詞があります。中学・高校で習った古文を思い出してみてください。例えば、「下二段活用」というものがありました。例えば、「得(う)」は「え-え-う-うる-うれ-えよ」と変化します。順に「未然形-連用形-終止形-連体形-已然形-命令形」です。日本語や英語の例はもちろん直接スペイン語とは関係ありませんが、よく似た現象が偶然起こる例と言えます。

さて、スペイン語の動詞の母音変化は、以下の3つの系列に及びます。「現在系列(直説法・接続法・命令法)」、「過去系列(直説法点過去・接続法)」、「現在分詞」の3つです。意外に多いと感じたかもしれません。ただし、すべての動詞がそうではないのです。以下のように2つのグループに分けることができます。

(1) -ar型と-er型:「現在系列(直説法・接続法・命令法)」のみ
(2) -ir型の「現在系列(直説法・接続法・命令法)」、
「過去系列(直説法点過去・接続法)」「現在分詞」

それではまず、より単純な(1)のケースから見ていきましょう。この最初の母音変化動詞は、「二重母音化」(diptongación)によるものです。この二重母音化という現象はフランス語やイタリア語でも起こっているのですが、特にカスティーリャ語に特徴的です。変化パターンは、“e→ie”と“o→ue”の2種類があります。それぞれの例として、pensarとcontarを挙げます。

【I型:e → i】pensar	
直説法	接続法
pienso	piense
piensas	pienses
piensa	piense
pensamos	pensemos
pensáis	penséis
piensan	piensen

【II型:o → ue】contar	
直説法	接続法
cuento	cuente
cuentas	cuentes
cuenta	cuente
contamos	contemos
contáis	contéis
cuentan	cuenten

二重母音化の特徴は、強勢がある音節のみに起こることです。つまり、6つの活用形のうちnosotrosとvosotrosでは起こらないのはそのためです。-ar型動詞と-er型動詞では現在形のみで母音変化が起こることは先に述べたとおりです。それでは例文です。

En nuestro país la natalidad desciende sin freno y no sabemos dónde vamos a parar.
わが国では出生率低下はブレーキがかからない。どうなってしまうのかわからない。

Estos datos muestran claramente el reciente aumento del número de turistas extranjeros.
これらのデータから最近の外国人観光客の増加は明らかだ。

僅かながら“e → ie”、“o → ue”に引きずられてこれらと同じ活用をする動詞があります。初級教科書でも必ず出てくるjugarです。oではなくuがueと二重母音化します。

jugar: juego, juegas, juega, jugamos, jugáis, juegan

このタイプはこの動詞1つだけしかありません。conjugarはueと二重母音化しないことに注意が必要です。一方、eの代わりにiがieに変化する動詞があります。

adquirir: adquiero, adquieres, adquiere, adquirimos, adquirís, adquieren　※元々quererと同語源です。

En esa escuela casi todos los alumnos adquieren la competencia lingüística en euskera.
その学校ではほとんどの生徒がバスク語の言語能力を獲得する。

これらの二重母音化動詞の中には綴りに注意すべきものがあります。errarでは語頭にあるe-が、“e-→ ye-”となります。つまり、

errar: yerro, yerras, yerra, erramos, erráis, yerran

となります。このパターンの動詞はerrarのみです。

El hombre yerra tanto como lucha.
人間は努力する限り過ちを犯すものだ(ゲーテの格言)

一方、変化するoが語頭にある場合は、“o-→hue-”となることに注意が必要です。olerが代表例です。

oler: huelo, hueles, huele, olemos, oléis, huelen

といった具合に-ue-と二重母音化が起こった形のみその前にh-を付けます。これはなぜでしょうか、それは中世のスペイン語では、UとVの使い分けがまだはっきりとしていなかったことに由来します。現代語の様にUは母音、Vは子音とはっきりと使い分けていませんでした。例えば、ueとveはどちらも「ウエ」とも「ベ」とも読めます。そこで二重母音の前には発音しないh-を付けることにしました。これでhueloはolerの活用形、veloは「ベール, 被り物」を表す名詞と区別できます。名詞のhuevoにh-が付いているのも全く同じ理由です(形容詞形のovalは付かない)。

現在形と活用形が近いものに「命令法」があります。直説法現在と非常に似ていてtúに対する命令形ではやはり二重母音化型の母音変化が起こります。　pensar → tú piensa　contar → tú cuenta

-ir型動詞の母音変化については次号で扱います。¡Hasta la vista!

仲井 邦佳 なかいくによし / Kuniyoshi Nakai
立命館大学産業社会学部教授。京都イスパニア学研究会長。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習一』(共著、同学社)などがある。